

はじめに～シベリアで広がる違法伐採の脅威、日本との関わり

野口 栄一郎 / 国際環境 NGO 地球の友ジャパン

今始まる前に青山ブックセンターに立ち寄り環境のコーナーに行ってみましたが、シベリアの森林が危機に瀕していると言った本は棚にはありませんでした。今日このようなタイトルでシベリアの森林の危機や解決策について話し合いますが、まだ世間では、本屋さんに言っても本が見つからないという状況です。

シベリアの森林をロシアの人たちはタイガと呼びます。私たちが日本の山で見慣れている森林とは成り立ちがだいぶ違ってきます。基本的に100%近く天然の森で、風景としては高さ30～40メートルくらいのまっすぐに伸びた松の木で、エゾマツだとかカラマツだとかが比較的等間隔に並んでいます。日本で森といいますと、山の急な斜面に杉やヒノキがそびえている森を思い浮かべます。シベリアの森は地面の平らなところ、たとえば川の流域や盆地のような平らな大地に30～40メートルの針葉樹が生えています。そういう森林地帯が何十万haと重なっています。日本ではそういう姿の森林地帯は残っていません。今日アンドレイさんや皆さんが話す、危機にさらされているロシアの森林、寒帯林やタイガというのはそういう森林です。

なぜここでロシアを話題にしているのでしょうか。意外に思われるかもしれませんが、統計で見ますと、ロシアは世界最大の森林国といえる国です。世界の森林の面積と蓄積の両方で20%強がロシアに存在しています。

1990年代にソ連体制が崩壊した後、欧米のNGOが「これからロシアの森林が危機に瀕する」と言い始めました。私のいる地球の友ジャパンは、最初そういうところから情報を得て活動を始めました。「シベリアの森林やロシア極東の寒帯林の危機が瀕するぞ、ソ連が崩壊して森林破壊が始まるぞ」というメッセージを私が聞いたのは6～7年前でした。国連の食糧農業機関（FAO）の統計をみるとロシアの森林面積は立方mからいってもぜんぜん減っていないから森林破壊などどこにあるのだというふうにおっしゃっている方もいらっしゃいます。NGOとしての私たちは、シベリアの森林に対する脅威、違法伐採の広がりも含めての脅威の結果だけではなく、ロシア全土というより、細かい区切りで見たりします。たとえばロシアの森林にもいろいろな種類の木がありますが、森の中に立ち並んでいる樹種の中で商業的価値の高い木はロシアの伐採業者が、ねらいうちして伐ってしまうので、特定の樹種がねらいうちのように伐採されたあとは一見森の面積は減ってなくても、たとえばチョウセンゴヨウマツが高く売れたので伐採が進みます。チョウセンゴヨウマツはロシアの森林の生態系の中では大事な役目を果たしていたので、その影響はどうなるのかとか、NGOの細かい区切りで自然を見たりします。

またたとえば、ロシアの森林が生活基盤になっている少数民族、森林先住民族のウゲデ族やナナイ族と呼ばれる人たちが極東森林地帯の何ヶ所かに今でも生活しています。彼

らの暮らしに影響が出るのではないかとこのころに NGO は目を向けています。

今日のテーマは第一部がシベリアの森林で今何が起きているかで、第二部では森を守るためのツールと手段である認証の話になると思います。認証というものが必要になる背景をアンドレイさんがお話しますが、これは新しい考え方であると思います。「値段がついてお店に並んでいるものを買って何が悪い、買うのは金を持っている人間の自由である」という考え方は、今まで人間の歴史の中で続いてきた考え方であったと思います。この木材の認証というのはそれに挑戦する新しい考え方なのかもしれません。お金を持っていて、その木を買う。お金を持っている人間も買うときになんらかの責任が生じるという話です。

ロシアは、ソ連時代に森林の管理を行う役所、森林環境部、各地の森林を現場で管理する営林署に職員の給料に投じるための予算であるとか、モスクワの連邦政府から割り当てがあって、一生懸命回ると給料ももらえて、森林の維持管理の仕事を日々現場でやっていたわけです。それから丸太を森から伐り出すほうも、ソ連時代は国営の造材企業というか伐採企業でレスプロムホーズと呼ばれるところが受け持ち、役割分担がありました。10 年前ソ連が崩壊してから伐採を行う部分に関しては民営化されたり、新しい私業が登場してきて変化が始まりました。一方森林を維持管理する部分に関しては毎年予算が削減されて行きまして、昨日アンドレイさんからお聞きした話では 1999 年には極東のハバロフスク地方の営林署は職員を養って本来の業務を行うために必要な費用の 18%にあたる予算しか連邦政府から来なかったので必要なお金の残り 8 割以上はほかの手段でまかなったということです。ほかの手段とはアンドレイさんからお話があると思います。さらに去年からは営林署に全く予算が来なくなったそうです。営林署はもうだれからも管理を受けなくなって、職員を養うために自らどんなことをやっているかについてはアンドレイさんから聞けると思います。今は森林維持管理を行う役所の予算が全くつかない状態です。ロシアという国は昨年、日本の環境省にあたる役所が、大統領によって廃止されるなど、政治や行政機関が大きく変わってきています。それについてはナタリアさんが詳しく報告してくださると思います。

今、ロシアという国は森林の利用に関して今までと違った方向に向かっているようです。それがどこを目指しているのか、その中で日本はどのように位置づけられているのか。日本と中国はロシアの人たちから見ると位置づけが大きいのだと思います。日本それから中国はどのような役割を果たして行くのか、ということに関心が大きいとお聞きになったら、なぜ今認証の話を始めることが大切であるかを感じ取っていただけるかと思います。どうもありがとうございます。